

品川区幼稚園の今後のあり方検討PT第2回 議事録

日 時	令和3年12月23日(木) 9:00~10:40
会 場	253 会議室
出席者	柏原会長、米田副会長、勝亦委員、工藤委員、山崎委員、若生委員、立木委員、初貝委員
事務局	保育管理係(福島、井添、武田)
使用資料	別紙参照

議事録

PT前半で、令和3年10月に実施した幼稚園需要調査の結果報告を行い、後半では、同調査結果を踏まえた「区立幼稚園の今後のあり方(保育課案)」を提示したうえで、各委員による意見交換を実施した。

【意見交換(主な意見)】

■幼稚園需要調査の結果について

- ・区立幼稚園に対する保育ニーズが高まっており、教育内容よりも長時間の預かりを重視する傾向がみてとれる。
- ・2年保育から3年保育への拡充を望む声もあるが、3年保育を実施している私立幼稚園との共存や、区立・私立それぞれの役割を考慮すると、実現は困難だと思われる。
- ・通園距離の近さに対するニーズもあり、徒歩登園のしやすさに加えて、小学校への進学後も見据えた友達づくりを望む保護者の思いがうかがえる。

■「区立幼稚園の今後のあり方(保育課案)」について

- ・保育ニーズの高まりを受けて区立幼稚園の幼保一体化をさらに進め、一体化に課題のある施設については適正配置(廃園)を検討する、という大きな方針に賛同する。
- ・適正配置(廃園)のタイミングは、区の子育て施設が需要を一定程度満たした後にすべきである。
- ・計画の進め方や対外的な見せ方については、地域ごとの需要、施設改築費用や将来的な活用方法等も含めて総合的に検討し、慎重かつ丁寧に進める必要がある。
- ・地域における幼児教育センターとして、区立幼稚園の機能を拡充することは必要不可欠であり、区の幼児教育について区民に発信し、啓蒙していく役割も担っている。

今後の予定

- ・令和3年度の庁内会議は今回で終了する。
- ・令和4年度は新たに検討委員会を設置し、具体的な検討を進め、基本方針を策定する。